

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102113		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム 市野の家 (1号館・2号館・3号館合同)		
所在地	浜松市東区市野町287-1		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277102113&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年1月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある明るく笑顔 優しい対応 心のふれあいと家庭のぬくもりを大切に を基に職員が一丸となり今日も楽しかったなと思っていただける様とりくんでいます。家族とのコミュニケーションも大切に、いつでも気軽に訪問でき居心地良くすごせる様配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神社、歯科医院、心療内科・整形の医院に囲まれ、安心感のある立地に事業所はある。開設から9年目となるが管理者はじめ自治会長も交替がなく、市職員・包括職員も同じ顔ぶれであることから、運営推進会議も座談会のような雰囲気になっていて、オープンな討論ができています。そのため、地域交流や行政との連携が年を追うごとに充実している。また、職員に恵まれていて、各月の行事や共用空間のインテリアなどをはじめ、利用者主体のケアについて自主性をもって尽力している。12月の忘年会で一職員が披露した「血回し」が利用者に好評だったことから、「(利用者にもっと喜んでもらえるよう)みんなで出来るようになろう」と一丸で練習しているというエピソードからも、ポジティブな精神とチームワークの高さが覗える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	市野の家の「明るい笑顔 優しい対応 家族のぬくもりを大切に」という理念を意識し、地域に根ざした施設として共存していきたいです。	職員の優しい面ざしや笑顔に利用者も同調すると考えていて、日常業務よりも利用者の意向を優先した対応をするように管理者は指導している。そのかいあって、家族からも「入所してから笑顔がでてきた」「落ち着いてきた」という声をもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しています。地域のお祭りや敬老会に参加させて頂いています。	開設して8年になるが、自治会長がその間変わらないことにも助けられ、地域との関わりが年々膨らんでいる。本年は近隣の中学2校から体験学習を受け入れていて、述べ35名の学生の訪問があった。学生とは一緒に散歩したり、芸の披露もあって利用者に好評だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議、施設をあげてのイベントによる地域の方々と認知症の方々と触れ合いを大切にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は施設職員全員で取り組んでいます 会議には職員もできるかぎり参加し各ユニットごとすのサービスの取り組みの発表をさせていただいたりします	自治会長が8年間変わらず、また市職員や包括職員も顔ぶれが同じであることから、オープンな討論ができています。そのため、地域情報のほかにも身体拘束についてなどの意見ももらえ、運営改善に役だっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者との連絡は定期的に行い、情報交換や相談を行っている。	毎月の更新手続きに向いた際には、会話をもつよう心がけている。行政職員の異動も少なく長いつきあいのため、話も弾み易い。また、運営推進会議の案内ならびに議事録も書面で届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」の意識を常に持って職員間で意見交換し合い取り組んでいます。	運営推進会議でもテーマにし参加者から意見を募ったり、職員間で話し合うことで、意識が継続できるよう取り組んでいる。また、このような取り組みの中で、新たな工夫が生まれることもある。法人本部の研修のほか、外部研修にも参加するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナーや各種講習に参加する機会を持ち、参加した職員は学んだことを他の職員に教えるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の御家族が成年後見人制度の手続をされたり 又 家族のおられない方には説明させて頂いています 。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の重要性を十分に理解し、入居者様と御家族に疑問点が残らないように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様にご協力願っていますが、お忙しい中をお願いするので思うようにいかない時もあり1名様の時もあります。	家族会の開催を試みたが、参加人数など課題を残している。また、本年から法人グループ内にあった療養病棟が老健に移行するという状況の変化もあるため、面談形式での開催を呼び掛ける予定でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会は月に一度行い、意見や質疑を交換している。	定着率がよく会議におけるメンバー変動が少ないため、意見交換が活発となっている。個人面談はしていないが、資格取得などの質問や相談は個々に直接管理者にあり、風通しがよい状況にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を生かし、各種イベントの係などを通じてやりがいを見いだせるようにし、認知症に関する知識を積極的に学び、意見を交換する環境を整えることにより向上心の持てる職場を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修は全員参加。各種研修に参加した職員は、他の職員に対して新たな情報や知識の共有をする環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加で他施設との意見交換や時には施設見学の申し出を受けたりしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人のそれまでの暮らしを参考にするのはもちろんのこと、入居されてからの心身の状態や日々の会話にしっかりと耳を傾け、要望を把握するように努め、応える様になっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションの面では、サービスに関係する話はもちろんのこと、直接関係する話でなくても、御家族の思いや考えを聞くことにより関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の希望を優先し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	市野の家の理念に基づき、職員全員が意識の向上、改善点への指摘をし合い、常に入居者と職員という関係だけではなく、人間味の溢れる関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対応の中でご家族の協力や理解は不可欠であることを御家族にわかって頂き、しっかりと連携をとってサービスの形を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人希望時には会いたい方へ連絡をとっています。	家族のほかにも、信仰をもつ仲間や友人の訪問がある。家族にも外出支援をお願いしていて、協力してくれる家族もいる。面会簿は1頁の欄が埋まれば別保管していて、来訪者への個人情報保護の配慮もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何でも職員が入っていくのではなく、入居者様同士の関係を大切にいただく為の、バランスのとれた介入と見守りをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりの中で信頼関係を築き、退去の際にもまたお力になりたいことも伝え、継続的な関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者ひとりひとりの会話や表情で希望や意向を把握するように努めており、その内容は職員間で共有するようにしている。	一部センター方式も活用し、思いや意向を把握しやすい方法を模索している。職員が業務を依頼することで利用者のやりがいを引き出している様子を訪問時にも視認した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あらゆる資料に目を通し、御本人への聞き取りも同時にしていくことで把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の暮らしを常に記録し、バイタルチェックや入浴介助時の見守り等の場面で、心身状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を踏まえて、その人らしく生活ができる様に課題を明確にした具体的な介護計画の策定を行っている。	カンファレンスなどでの職員意見を反映し、各ユニットの計画作成担当者が作成したプランをケアマネージャーがまとめている。家族や医師の意見を確認することはあるが、プランを共につくるという段階には至っていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を把握し、傾向や変化に気づき、それを基に職員間でしっかりと話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に新しい可能性を模索し、全てのことに前向きになることで限界を作らない介護を目指しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の機関からの協力と理解を得られる様働きかけています。ボランティアの方たちとの協力で楽しい時間を過ごして頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	些細な変化にも気付くようにし、医師との連携、情報交換をスムーズに行うことで迅速にケアの行える環境を作っています。	協力医が2ヶ月に1度、24時間対応の医院が1ヶ月に2度の往診がある。また、看護師の訪問も週2度あり、医療連携が充実している。医療記録は受診ノートに記載し、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に2度の訪問時には入居者の日頃の状況を細かく説明し健康管理を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族医療機関との連絡を密に取り早期退院に向けての話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族医師とその都度話し合いを行い、今後の変化に備えられる様取り組んでいます。	看取りは事業所として経験を重ねていて、今後もいくつかの条件が叶えば家族の意向に添っていきたいと考えている。また、看取りに取り組んだ先輩職員からの体験講話もこれからの取り組みに期待されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導の元、年に一度蘇生訓練を行なっています。又、急変時には各館職員が協力、応援に入る体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関連の知識や情報を持ち合い、防災訓練の際には考えうる災害を想定した訓練を行っている。	年2~3回開催していて、そのうち1回は消防署の協力を得て、心肺蘇生やAEDの訓練も行っている。水、お粥、乾パンなどの備蓄のほか、簡易トイレや防災ずきんの備えもある。	地域の皆さんにも今後は参加を呼び掛けることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの人格や尊厳を損ねることがないように言葉遣いや支援を心がけている。	「チャン」づけはしないことになっているが、本人や家族が希望した場合はそのように対応している。事務所以外で職員同士が利用者ことについて話すことがないよう、管理者は常々指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人が意思表示のできやすい環境作りとモデリングなどの介護技術の導入による行動からの意思の読み取りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でケアの質が落ちることはあってはならないことだという意識を常に職員全体で持ち、御本人の意思を尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性を大切に身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。プライバシーにも配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に入居者様の好みを反映させる事により、楽しく有意義な時間になるように心掛けています。	月～土曜日と日曜日、それぞれ2業者から食材を仕入れている。仕入れ先に関しては、利用者意見を反映してくれるという点を重視して選んでいる。調理や下膳を嬉々として手伝う利用者も視認した。また、クリスマス会のケーキのデコレーションなど「つくる楽しみ」も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の苦手な方には工夫して摂取していただく努力をしています。栄養バランスは、専門の業者と提携してカロリー計算の出来た食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	汚れや臭いが生じない様歯磨きの声かけ、介助、義歯の手入れを行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に応じた声かけをし、意欲が持てるよう支援しています。	排泄チェック表を作成し、声掛け誘導をおこなっている。夜間の排泄誘導については安眠やプライバシーを尊重し、居室から出てきた利用者に対して見守り誘導やパット交換などの介助をおこなっている。また、リハパンなどの消耗品が高額にならないための検討をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に異常のある時は、医師の指示を仰ぎ、予防・改善に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し入浴可能かの見極めをしています。一人ひとりの希望に合わせてくつろいだ入浴ができる様支援しています。	苦手な人でも週に最低2回は入ってもらよう工夫し、清潔保持に努めている。一方、「毎日入りたい」人もいて、希望に応じている。家族風呂の広さがあるため数人で入ることもある。また、温泉の素や蜜柑の皮なども時には利用している。	現在が決して整っていないわけではないが、さらなる5Sを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝・昼・晩を景色やテレビ番組、食事やおやつなどによってできる限り把握して頂き、夜間は照明や気温などに気を配り安眠していただける環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された薬の用法・用量を、把握した後に必要な支援をさせて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味・嗜好に合わせた毎日のレクリエーションの組み立てを行い、役割や気分転換も日々の生活の中で無理のない範囲の声かけを心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の状況に応じて努力しています。	近くの寺院を目指し、近所の人と会話をもったり、蜜柑をもらったりしながら散策する時間をもっている。年2回はフラワーパークなど遠出をしている。その際には、配布されているタクシー券を活用してジャンボタクシーを借り上げ、安全な移動を確保している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は紛失・盗難の恐れがあるため職員が管理していますが、買い物や外食の時などはお金をお渡しし、支払いをして頂くようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に御本人のタイミングでいつでも電話をかけたり、手紙を出したりして頂いています。御家族の迷惑にならない時間帯の把握もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を味わえるような花植物を生けたり、ぬり絵などの作品を自室に飾る等して頂いています。	月毎の掲示や日めくりカレンダーがあり、時節や月日を意識させるものが配置されている。他にも職員手作りのタペストリーや生花が飾られ、家庭生活の穏やかな雰囲気を漂わせている。時間帯によってはリラクゼーションのBGMが流れることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が過ごせる様配慮し、独りになれる居場所作りにも工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、安心して居心地良く過ごせる様支援しています。	テレビや座椅子など使い慣れたものを持ち込んでいる。居室ドアに目印を置いたり、電灯の紐に掴みやすいものを取り付けたり、思い思いの居室づくりをしている。掃除は自分でする利用者もいるが、主には職員がしていて、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を記し、目印に扉にぬいぐるみ等をつけ分かりやすい様にしています。		